

岐阜県関市立瀬尻小学校

問い合わせ先：電話番号 0575-22-3120
FAX 0575-24-7971

I 学校の概要

- 1 児童生徒数、学級数、教職員数(平成20年12月現在)
児童数464名、学級数16、教職員数26名。
2, 4年生が3学級、他の学年は2学級編成で、特別支援学級が2学級の中規模校である。

2 地域の概況

校区の中央を長良川が流れ、田園が広がる美しい自然環境に恵まれた歴史文化の豊かな地域である。円空入定の地があり、弥勒寺跡は国指定史跡弥勒寺官衛遺跡群となっている。小瀬鯉河は地域の誇る県指定文化財である。小瀬獅子舞は江戸時代から継承されている。一方、校区の東は東海北陸自動車道、西はMAGロード（東海環状線）の東回り開通こともないその様相を大きく変えようとしている。

本校は、明治5年に永昌寺に文開義校として開校し、明治38年に瀬尻尋常高等小学校となった。その後、昭和22年に新学制のもと瀬尻小学校となり、昭和32年に校区西の広見地区が関市に合併し、現在に至っている。

3 環境教育の全体計画等

| |
|--|
| 学校の教育目標：自らとりくみ、やりとげるとよさを発揮する子 |
| 環境教育の目標：自然に学び、自然を愛護する心豊かな児童の育成 |
| 願う児童の姿：環境と人間との関わりについての理解を深め、環境保全に主体的に取り組む子 |
| 学年別指導目標 |
| 低学年：体験を通して地域の自然に関心が持てる子（良さの発見） |
| 中学年：地域の自然に親しみ、進んで関わることができる子（問題発見・調べ学習） |
| 高学年：自然に関心を持ち、進んで働きかけようとする子（問題自及・積極的な働きかけ） |

以上のような目標を掲げ、「教科」「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」に具体的な指導を行っている。

また、「ぎふ学校版ISO」「牛乳パック・アルミ缶の回収」「ごみ0の日」など環境に関わった活動も行っている。

家庭・地域との協力においては、通学路などのクリーンアップ作戦、青少年健全育成協議会との連携による長良川クリーンアップ作戦、関市の出前講座によるカワゲラウォッチング、PTAのリサイクル活動などに、児童と共に参加している。さらに、地域ボランティアの協力のもと、絶滅危惧種に指定されている「ウシモツゴ」の保護池を校内に整備し、観察を続けている。



長良川でカワゲラウォッチング

II 研究主題

「自然に学び、自然を愛護する心豊かな児童の育成」

III 研究の概要

1 研究のねらい

校区は豊かな自然環境に恵まれているにもかかわらず、子ども達の自然体験が少ない。その自然環境が壊されていたり、生態系が乱れたりしていることに気付いていないことが多い。そこで、これまでの取り組みを継続しつつ新たな取り組みを生み出したり、グローブ事業により環境を調査したりして、本校区の環境的な特色を少しでも明らかにすることを通して、校区の自然を愛護する心豊かな児童の育成を目指したい。

2 校内の研究推進体制

グローブ研究推進委員会（校長、教頭、教務主任、理科主任、英語主任、情報主任、各学年主任）をもち、教務主任・主題研究推進委員長（グローブティーチャー兼理科主任）を中心に、校長の監督のもと全校体制で研究を進めてきた。

具体的な調査、観測、観察

用水路での水質調査



活動は、SV活動（児童委員会活動）及び、4・5・6年生が行った。また、グローブ活動に関わる環境についての取り組みは、各学年が中心となって進め、取り組みの経過は、学級通信、学校通信、諸会議、地域住民との交流、市の環境フェスタなどで行った。

3 研究内容

(1) グローブの教育課程への位置付け

観測については、一日の日課の中の休み時間を中心に行った。環境に関する取り組みについては、1, 2年生は生活科、3～6年生は理科および総合的な学習の時間を中心として教育課程の中に位置づけて行った。

(2) グローブを活用した教育実践

観測の取り組みについては、児童の委員会活動の中で行った。「自然大切隊」に所属した児童が、毎日の気象観測（気温、気圧、

雲量など）、週一回の水質検査（透明度、PH）を続けてきた。また、グローブ活動に関わる「環境教育」としては、各学年で次のような活動を行ってきた。

①にこにこ学級、なかよし学級（特別支援学級）



収穫した大豆を使つての豆腐づくり

「大豆を育てよう」では、地元の豆腐屋さんと関わりを持ちながら大豆を育て、収穫から豆腐作りまでを体験した。また残りの大豆をきな粉にし、きな粉もちをつくった。大豆の他にも大根やジャガイモなど多くの野菜を育てる体験を行った。他にも、近くの野原でよもぎを摘んでよもぎもちを作ったり、落ち葉や木の実で遊んだりするなど身の回りの自然とたくさんふれあい、自然からたくさんの恵みを受けることができた。そして、このような活動の中で自然を大切にしようとする心情も培ってきた。



秋見つけ 秋で遊ぼう

児童からは「どんぐりをたくさんたくさんひろいました。木にもたくさんなっていました。みんなでたくさんひろって楽しかったです。森の中でねころんだらとつてもきもちよかったです。」といった感想が得られた。

②1年生の取り組み

生活科「いきものともだち」のなかで、6月に「ザリガニみつけ」、10月には「草むらの生き物みつけ」を親子で行った。つかまえたザリガニや虫をしばらく育てて観察するなど、お家の方とともに地域の自然にふれあうことができた。「花をつくろう」の単元では、アサガオやチューリップを育てた。このような活動をきっかけに、普段からも生き物を捕まえたり、身の回りの自然に目を向けたりすることができ、身近な自然に関わるととも

に命ある物を大切にしようとする心情を培ってきた。

後日の家庭から「今日は、『うれしいことがあったよ。』とただいまの言葉よりも先に話してくれました。『ぼくのザリガニと赤ちゃんをクラスで観察することになったよ。』と大喜び。毎日どんな感じだったか、報告してくれていました。

『お家でお世話するより、みんなと一緒にの方が楽しいよ。』と、ザリガニさんいろいろなことを学ばせてもらっているみたいです。」といった感想が寄せられた。



親子でザリガニとり

③2年生の取り組み

生活科の学習の中で、植物を世話し、観察を続けてきた。一人一株のミニトマトを育て、水やりなどの世話を毎日行ったり、成長の様子を記録したりした。また、サツマイモと大豆を畑で育て、収穫できた野菜を使って、親子で収穫祭を楽しむことができた。自分たち



長良川で鵜舟に乗る

で育てた野菜を自分たちで調理し、食べる喜びも味わうことができた。さらに、地域に積極的に出かけ、長良川などの地域の豊かな自然にふれる機会を多く持つことができた。



親子で収穫祭(サツマイモパーティー)

④3年生の取り組み

せじりタイム(総合的な学習の時間)「杉山さんと円空いもを育てよう」で、地域の杉山さん(円空いも開発者)、農業改良普及センターの方の協力のもと、円空いもを育て、親子で料理会を行った。円空いもの特徴や作り方だけでなく、無農薬で有機肥料を使ってみることも教えていただくことができた。これらのことで

収穫する喜びや地産地消について学ぶとともに、農家の方々が自然や環境のことを考えて農業に携わっていることにも触れることができた。



杉山さんに教えてもらおう「円空いも」

～児童の感想より～

くきに「だつ」というところがあるのを知りました。それに、子いもに根がはえないということもはじめて学びました。みんなが食べているところが「くき」だと知っておどろきました。まだまだ知らないことがいっぱいあるので、くわしく知りたいです。

近くの松尾山に登り、校区を山の上から眺める活動とともに、季節の自然とふれあう活動を行った。初めてみる植物もたくさんあり、地域の自然の豊かさに改めて気づくことができた。



松尾山に登ろう

⑤4年生の取り組み

せじりタイム「瀬尻の自然環境を守ろう」で、関市役所生活環境課及び岐阜県博物館学芸員の指導の下、季節ごとにカワゲラウオッチングを行った。調査結果や学芸員の方の話から春よりも冬の方が水生昆虫が多くいることやその要因として山の落ち葉などの秋の豊かさが川へ運ばれていることを知ることができた。さらに、地域の住まれるカワゲラの研究者である三浦さんから話を聞くことで、長良川にはいろいろな生き物がすんでいること、そこにすむ魚を餌として多くの鳥が育つことも知ることができた。カワセミの親鳥がヒナを育てるときに3000匹以上の魚を運んでくるということから、長良川は魚を育てるだけでなく、そこにすむ多くの鳥たちも育てていることを学習することができた。

また、地域の財産である小瀬鵜飼についての学習を行った。こ

の学習では、鵜飼の方法だけでなく、地域の人たちが1300年以上も昔から長良川の自然環境をいかし、川とともに生活してきたことを知ることができた。豊かな自然、豊かな長良川があったからこそ、受け継がれてきたこの小瀬鵜飼を今後に残していくために、環境を守っていくことがいかに重要であるかということをもとめることができた。



伝統誇る小瀬鵜飼の見学

～児童の感想から～

鵜匠さんは、とても真剣にやってみえました。鵜も拍手をすればするほどがんばってやってくれたので、鵜の口からあゆがでてくるところも見えました。鵜飼船が近くにきたときはとても温かかったです。長良川にきれいな火がうつっていました。とてもきれいでした。

小瀬鵜飼は、関の宝物です。ずっと続いてほしいし、鮎がいっぱいとれるきれいな長良川でいてほしいです。

学校の裏山である「松尾山」の登山を通して、四季の自然の変化を見つけたり、森林のはたらきについて学習したりした。

さらに、11月には長良川最上流部へ出かけ、源流やブナの森の見学を行った。この学習を通して、海や川を豊かにするために、森や田んぼが重要であることを学ぶとともに、自然環境を守っていくためにも森や川、海などいろいろなつながりを考え、保全していくことの大切さに気付かせることができた。



松尾山で学ぼう

～児童の感想から～

山には大切な土があります。土は、雨がふって水をたくわえます。水をたくわえた土は木を育てます。木が大きくなって葉を落して、栄養たっぷりの土を作ります。木がますます育って、根がしっかりはって水をたくさんたくわえられるようになります。木がなくなると雨がふったときに土が流れてしまいます。土がなくなると木はよわよわしい木になってしまいます。だから、山の木や土はとっても大切なんだということがわかりました。

海のない岐阜県で「豊かな海づくり大会」があるのはどうしてだろうと思いました。でも落ち葉で水がたくわえられていたり、栄養たっぷりの水が引川に流れたりすることがわかりました。そして、その川が海につながっているのだから、山と川と海はすごく関わっている、だから海のない岐阜県でも「豊かな海づくり大会」ができることがわかりました。

⑥5年生の取り組み

環境を考え、無農薬で有機肥料だけを使って米作りを行った。「みのにしき」という関の気候や環境に合わせて品種改良された米を地域の方の協力を得て育てることができた。この学習の中で「みのにしき」を開発された尾関さんを招き、開発の苦労やみのにしきの特徴などを学んだ。尾関さんによると、みのにしきは関市の気候に合わせて開発したのだが、地球温暖化で平均気温が上昇してきたためか、最近、収量が減り、米の質も落ちてきたそうである。地球温暖化がこんな身近なところにも影響していたことを知ることができた。



無農薬で米作り



みのにしき開発者、尾関さんに学ぶ

また、水田の水を顕微鏡で観察して多くの微生物を見つけたり、さまざまな昆虫や魚、蛙がいることを発見したりした。その魚や蛙を食べずにサギなどの鳥もやってきていることから、水田は、人間を豊かにするだけでなく、いろいろな生き物を育てていることを知ることができた。農薬を多く使わないことで、より豊かな環境になることも学ぶことができた。



松尾山での森林学習

11月には、NPO森のなりわい研究所代表の伊藤栄一先生に来ていただき、森の役割や保全についての話を聞いた。森を

育てることは川をも育てるということ、また、循環的資源である木の重要性について学ぶことができた。松尾山を活用して、関市林業研究会の方々の指導のもと、人工林の適切な管理の仕方を学び、枝打ち体験や丸太切り体験、間伐学習を行った。



枝うち体験

～児童の感想から～

山の手入れをすることで、山が整備されるだけでなく、川や海にもいい影響があることを知りました。山を育てることは、すごく環境にいいことなので、これからも大切にされるといいなあと思いました。

木を植えるだけでなく、枝打ちや間伐をして、しっかり手入れすることがとても大切なんだとわかりました。大変な作業をすればするほど、いい材木になって、高く売れるから、林業の仕事は大切だと思いました。それに、自分が苗を植えても、その木を切るのは、子供や孫の代になるということが心に残りました。

石油は使ったらもう無くなってしまいうけれど、木は切っても苗を植えれば、ずっと使えるということが心に残りました。木を大切に使うことがとても大切だし、山で木を育てることは環境にとってもいいことなんだと思いました。

⑦6年生の取り組み

理科「人と自然環境」の学習の中で、「松尾山登山で地域の自然環境を考えよう」に取り組んだ。森のなりわい研究所所長伊藤栄一先生の指導の元、一緒に登山をし、3学期には講演をしていただいた。このような学習を通して地域から日本そして世界の環境にも目を向け、自分自身が自然にどう関わっていくかを考えさせ、積極的に自然を守ろうとする心情を培ってきた。

～児童の感想から～

環境、木についての話を聞きました。昔の人は、木を薪や炭にして使っていて、一度切った木を30年待って使うという使い方をしていたことが分かり、昔の人たちは環境に優しい暮らしをしていたんだなあと思いました。地球には木の生えやすいところと生えにくいところがあって、日本は生えやすいところだからこそ、率先して木を植えていかねければダメだなあと思いました。このお話で、あらためて、地球のことについて考えることができて良かったです。

今日は、人工林や自然林などの話を聞き、森林についての興味をもつことができました。日本は、日本の木よりも外国の木をたくさん使っていると聞いて、ぼくは、『日本は世界の木を減らしているんだ。日本の木も使わなければいけない。』と思いました。山の木を切りすぎてしまうと、そこに

住んでいる動物にも悪いし、一度木を切ると成長するまで10年以上のとても長い時間がかかる。それに、二酸化炭素を吸って酸素を出してくれる木を減らしてしまうと地球温暖化にも関係してくる。これからは、地球の環境のこともしっかり考えていきたいと思いました。

伊藤先生の話聞いて、日本には原生林が8%程しかないことが分かりました。環境に優しく、木を使ったり、薪ストーブにしたりする暮らしも自然な感じで良いなあと思いました。地球温暖化を止めるためにも環境にやさしいことを心がけたいと思いました。私たちの関市は、まだ自然（山・森）がたくさんあって、山登りをしたり、自然と触れ合ったりできるので、それはとても幸せなことです。



刀鍛冶体験

また6年生は、小瀬鵜飼や刀鍛冶など地域の伝統文化や歴史について学習した。刀鍛冶や小瀬鵜飼などは、豊かな自然環境があってこそ成り立つものであり、その自然を人が活用しながら生活を営んできたことを学習することができた。このすばらしい伝統文化を守っていくためにも、地域の自然を守っていくことがとても大切であることを学ぶことができた。



鵜匠さんに学ぶ



アルミ缶の回収

⑧その他の取り組み

瀬尻小学校区青少年健全育成協議会、瀬尻小学校PTAの主催で

「親子長良川クリーンアップ作戦」も行った。また、児童の委員会活動の中で、牛乳パックやアルミ缶の回収を行い、リサイクル活動にも取り組んでいる。毎日の給食に出る牛乳パックは、飲み

終わったらかきれいに洗って乾かしておき、トイレットペーパーと交換をし、校内で使うようにしている。これらのことから児童の環境やリサイクルに対する意識を高めることができた。

今年度は、EM菌発酵液を作製し、プール掃除に活用した。プール掃除前にEM菌を投入しておくことで、有害な洗剤を全く使うことなく、プールの汚れを落ちやすくでき、環境にもいいことから、次年度からも行いたいと考えている。

また、絶滅危惧種に指定されているウシモツゴの保護池を地域の方や岐阜・美濃生態系研究会の方の協力を得て校内に整備した。ウシモツゴが

すめる環境がどんどん減ってきていることを学び、人間の都合だけでなく、他の生き物たちのことも考えていくことの大切さについて考えることができた。今後、ウシモツゴを育てたり、観察したりすることや数が増えたら近くの川へ放流することを行うなどして、ウシモツゴがすめるような環境を守っていくという意識を高めていきたい。



給食の牛乳パック回収



EM発酵液づくりの新聞記事



ウシモツゴの保護池

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

気象や水質の観測を委員会活動の中で行うことで、児童のみで観測できるような体制ができた。また、その委員会を中心にして、気象観測や水質検査の結果をグローブ本部に送ることができた。瀬尻校区の環境が広くは地球規模で成り立っていることや、地域の生態系に地球環境が景響していることを知るきっかけができた。

本校の裏にある里山の「松尾山」にPTAや地域の方々の協力のもとに登山道を整備することができた。それによって、3年生から6年生までが年間に数回登ることができ、大きなスケールで自然を見つ

めることができた。そこでは、森のなりわい研究所長の伊藤栄一先生に来ていただき、一緒に山に登って子ども達に直接指導していただいたことで、子ども達が身近な自然に対して進んで関わろうとする意識が育ってきた。

各学年も環境とのつながりを意識して実践を進めることができた。その結果、低学年は、地域の自然と関わったり自然を見つめたりすることができた。高学年は、地域の自然の素晴らしさやその自然を大切にしていこうとする意識を高めることができた。



学校の裏山「松尾山」

2 研究の課題

気象や水質の観測を一部の児童としたことで、教員がいなくても観測できるようになったが、学年や全校への広がりには弱い面があった。少しでも多くの子に観測の体験をさせ、全校こんな取り組みをしているのかを児童の手で広めていく必要があった。

環境教育としては、どの学年も取り組めたが、次年度の学年へ成果と課題を伝えることが弱く、その年その年の取り組みとなってしまう。自分たちの学年の成果と課題を下学年に伝え、次年度はその活動を引き継ぎ、発展させていけるとさらに意味のある取り組みになると考える。



「松尾山」から見た長良川

V 今後の展望

2010年に岐阜県では「全国豊かな海づくり大会」が開催される。そして、瀬尻小学校校区もその会場となることが決まっている。よって、この「全国豊かな海づくり大会」に向けた取り組みを中心に、長良川の環境を考えること、森と川と海のつながりを考えること、山や森を育てることなどについて学習を行い、環境を通して様々な生き物のつながりがあることやその環



校区を流れる長良川(全国豊かな海づくり大会の会場)

境を大切にすることを学ばせていきたい。また、地域の自然の素晴らしさに十分ふれさせ、地域を愛する心情も育てていきたい。

校内に整備されたウシモツゴ保護池を活用して、絶滅危惧種に指定されているウシモツゴを育てるとともに池の水質調査を行っていく。そして、ウシモツゴが増えたときには、校区の池や川に放流していく。この取り組みを通して、ウシモツゴが住めるような環境について考え、地域の自然や環境について学習していく。

また、下記の観測も引き続き行っていく。

- ・大気観測・・・天気、気温、最高・最低気温、雲、飛行機雲、気圧、相対湿度を測定する。測定は、休み時間を活用して行う。
- ・水質観測・・・長良川支流としての曾代用水支流を活用し、PHや透明度、CODについて定点観測を行う。測定は、週に1回行う。ウシモツゴ保護池の水温、水質についても記録していく。また、長良川でのカワゲラウォッチングも引き続き行っていく。
- ・フェノロジー・・・学校の裏山である「松尾山」のアバマキを中心に調査を進める。季節ごとの松尾山マップを作成する。

環境に関わる活動として、特別支援学級は「生活単元学習」、1・2年生は「生活科」、3～6年生は「理科」及び「総合的な学習の時間」で、取り組



児童による気象観測

みを行っていく。そして、環境や生態系を問題解決的に学び、その学びを通して培った、ものの見方考え方をもとに、歴史、自然、人々の営みについて学校での教科学習や家庭での学習などで考えさせる。そして、その考えを地域や関係諸機関も含め、様々な所へ発信していきたい。